

放射線安全管理学 (放射線双書)

川井恵一, 松原孝祐 著



放射線の被ばくを防止し、安全かつ有効に取り扱うための実務が放射線管理業務であり、この管理業務を技術的に体系づけた放射線安全管理学は、放射線を利用するすべての者にとって最も基本かつ重要な知識である。福島第一原子力発電所事故以降、「放射線」という言葉は一般公衆を含めた多く

の人の関心を集めただけでなく、放射線管理に携わる者にとっても、その管理方法、被ばくに対する理解や説明を改めて考え直す機会にもなり、関連する省庁や法令の見直しがなされるなど状況は大きく変化している。そのため、放射線を取り扱う者は、最新の知見や状況に基づいた情報を常に収集し、知識を整理し直していく必要がある。

本書は1973年に「放射線管理技術」として初版を出版して以降、大幅な法令改正と共に改訂や「放射線管理学」への改題を実施し、また平成20年以降、学会名や診療放射線技師国家試験科目名にも使用されている「放射線安全管理学」へと改々題、内容の充実を図っている。ここまで長く増刷が続いているのは、それだけ読みやすく多くの読者に有用な情報を与える書籍であることを示している。

本書は全11章で構成されており、1. 放射線管理と線量、2. 国際放射線防護委員会の勧告と障害防止法、3. 人類の被曝線量：放射線衛生学、4. 放射線源、5. 放射線防護の原則、6. 施設・設備・機器と安全取扱い、7. 環境の管理、8. 個人の管理、9. 医療施設の放射線管理、10. 廃棄物の処理、11. 事故と対策、と放射線管理に関する必要な項目を網羅している。全体として放射線管理に必要な情報が要点をまとめて簡潔に示されており、理解しやすい内容となっている。特筆すべき点として、今回の改訂にあたり、「9. 医療施設の放射線管理」が新設されており、医療現場で必要とされる患者やその介助者、生物医学研究プログラム志願者の医療被ばく、放射線診療従事者の放射線防護や医療施設における放射線機器や放射線医薬品の安全取扱いに関する情報が数多く追加された。また以前からであるが、章ごとに演習問題と詳細な解説を用意しており、各章の重要なポイントや理解度を把握する指標として活用できるようになっている。発行時の最新の法令、規則の情報に合わせて改訂していることはもちろん、関係法令の引用についても細かく示されていることから根拠となる法令原文の確認が容易となっている。更に医療被ばくのトピックスである日本での診断参考レベルや、国際放射線防護委員会の勧告を受け本邦でも法令改正に向けた検討がなされている水晶体被ばくの線量限度にも触れられていることから放射線管理の現状を理解することができる。

放射線防護の概念から、現場での実践的な放射線管理方法や対策についても触れられており、これから放射線を取り扱う学生はもちろん、放射線を取り扱う実験を始める際や、放射線施設で管理業務に携わるような広範囲の読者に対して有益な情報を提供する良書であり、一読することをお勧めする。

(藤淵俊王 九州大学)

(ISBN978-4-86045-100-4, B5判, 222頁, 本体価格3,000円(税別), 通商産業研究社, ☎03-3401-6370, 2017年)

❖ Isotope News 読者アンケート実施中! ❖

今後の誌面作りの参考のため、アンケートにご協力をお願いいたします。

◎回答方法：右のQRコードからアクセスし、入力をお願いいたします。

(<https://goo.gl/forms/z04QwsQD4DG6eqxW2>)

◎締切：1月5日(金)

FAX または郵送での回答希望の場合は、52ページをご参照ください。

